

利尻島におけるアケボノシュスランの記録

佐藤雅彦¹⁾・丹羽真一²⁾

¹⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

²⁾ 〒 004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目山岸ビル3F さっぽろ自然調査館

A Record of Orchid, *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana*, from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Masahiko SATO¹⁾ and Shin-ichi NIWA²⁾

¹⁾Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

²⁾Sapporo Nature Research & Interpretation Office, Atsubetsu-chuo 1-7, Atsubetsu-ku, Sapporo, Hokkaido, 004-0051 Japan

Abstract. *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana* was newly recorded from Rishiri Island in July 2000. Their habitat in this island is restricted only at deciduous broad-leaved forest of Hime-numa area. Localization of this orchid may be due to geological history of this area, e.g., escape from volcanic activity and climate changes in glacial period.

アケボノシュスラン *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana* はラン科に属する常緑の多年草である。樹林下に高さ 5-10cm の植物体を生やし、白色に淡紅色が混じった花を夏の終わりに少数つける (佐竹ほか, 1982)。国内では北海道から九州・奄美大島まで広く分布するが、北海道内では渡島半島から宗谷にかけての日本海側に分布記録が多い (伊藤ほか, 1990)。知床での記録もある (内田, オンライン) が、道内においては多雪地に偏在する種といえる。また、本種は国立公園における指定植物 (環境庁, 1980) となっている。

利尻島は多くの植物学者が訪れる島にも拘わらず本種の記録はこれまで見あたらず (館脇, 1941; 松野, 1984), 筆者の一人である丹羽が 2000 年 7 月 8 日に初めてその自生を確認した。島内での自生地が限られることに加えて、小型で目立たず、花期が 8 月下旬から 9 月にかけてと遅いことから、これまでの植生調査では見逃されてきたと考えられる。

本記録は国内におけるアケボノシュスランの最北端の記録と思われるので、近年の生育状況などとあわせて報告することとした。

利尻島内における現在まで知られている本種の自生地は姫沼周辺の林床 1 か所に限られる。本種は茎の下部が匍匐して地下茎状となるため正確な株数は不明であるが、およそ 2 × 1 m の範囲に約 120 の地上茎が確認されている (Figs 1-2)。2008 年 9 月 11 日における開花状況は 2 株が開花中で、4 株が花期を過ぎたもので、それ以外では開花した痕跡は見あたらなかった。自生地はオヒョウ、キハダ、ハリギリ、ダケカンバにより直射日光が遮られた林床で、オニシモツケが群生する。本種の周辺には、クルマバソウ、ホウチャクソウ、ツタウルシ、オオタチツボスミレなどがまばらに見られた。自生地は利尻礼文サロベツ国立公園内に指定されている場所であり、木道の設置などによって踏み込みなどの踏圧もかかりにくく、その環境は比較的安定しているも



Figures 1-2. *Goodyera foliosa* var. *maximowicziana* (Himenuma, Oshidomari, 11th Sep. 2008.). 1. flower; 2. habitat.

のと思われる。

姫沼周辺地域には利尻固有種であるリシリオオウズムシ（石田，2000）や島内では局所的な分布をするエゾノリュウキンカやエゾサカネラン，ニホンザリガニなどが見つかっており，本種もその後者の例にあたるものと考えられる。このような独特の生物相が本地域で見られることは，おそらく最終氷期にかけて活発であった利尻火山による溶岩流の影響を直接受けなかったことが大きな原因のひとつと想像される。姫沼の南側には火山活動の後期に流れたとされる姫沼溶岩流が認められるが，姫沼を覆うことなくとどまっている（石塚，1999）。利尻島の多くの場所が2-4万年前の火山活動の影響を大きく受けていたことを考えると，姫沼周辺地域はそれらの火山活動以前に同島に分布を広げた生物たちが生き残ることが可能だった極めて稀な場所のひとつと考えられ，利尻島の生物相の変遷を考える上でも大変貴重な場所と言える。アケボノシュスランは道内ではそれほど珍しい植物とは言えないが，本種を含めたこれら局所的な分布を持つ生物が今後も利尻島内で大切に保全されていくことを心から願いたい。

参考文献

- 石田幸子，2000. 利尻島に生息するプラナリア. 利尻研究, (19): 45-49.
- 石塚吉浩，1999. 北海道北部，利尻火山の形成史. 火山, 44(1): 23-40.
- 伊藤浩司・日野間 彰・たくぎん総合研究所(編著). 1990. 北海道高等植物目録Ⅱ. たくぎん総合研究所. 288pp.
- 環境庁，1980. 国立，国定公園特別地域内指定植物図鑑. 北海道編. 環境庁自然保護局. 467pp.
- 松野力蔵，1984. 利尻島の植物目録と礼文島特産植物目録. 38pp. 自刊.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編). 1982. 日本の野生植物. 草本. I 単子葉類. 平凡社. 305pp.
- 館脇 操. 1941. 北見利尻島の植物. 札幌農林学会報, (34):70-102.
- 内田暁友.” 斜里町と知床半島の植物情報”. 斜里町知床博物館. (オンライン), 入手先< <http://shir-etok.myftp.org/page/shokubutsu/planta.html> >, (参照 2008-10-15).